受付
第　号
7.2.-4
東かがわ市議会
事務局

様式第４号（第７条関係）

令和７年２月４日

東かがわ市議会議長
渡邉堅次　様

東かがわ市議会議員
（会派・個人・その他）
氏　名　工　藤　正　和

行政視察等報告書

1	日　時	令和７年１月２３日～令和７年１月２４日	
2	参加者	田中貞男・大田稔子・工藤正和・橋本　守・堤　弘行	
3	研修目的等	内　　容	研修場所
		道の駅あがの整備事業について	新潟県阿賀野市「道の駅あがの」
		スマートウエルネスみつけについて	新潟県見附市役所
		書かない窓口について	新潟県見附市役所
4	研修・調査内容	「道の駅あがの整備事業について」は、設置までの経緯や運営主体の特色、現状等について調査した。 「スマートウエルネスみつけについて」は、地域の医療体制や開業医についてと、「書かない窓口について」は、その仕組みや、メリット・デメリット等について調査した。	
5	研修成果	別　　紙	
6	費　用	６３,７８０円	

※領収書（交通費・宿泊費の明細が分かるもの）、研修資料を添付してください。

行政視察報告書

報告者：工藤正和

1．　令和７年１月２３日（木）・令和７年１月２４日（金）

新潟県阿賀野市　「道の駅あがの整備事業について」

新潟県見附市　「スマートウエルネスみつけについて」

「書かない窓口について」

「研修成果」

○「道の駅あがの整備事業について」

阿賀野市は平成 12 年に「福祉の道の駅」として発案したものの進まず、阿賀野バイパス開通の兆しが出た平成 28 年に整備検討委員会を発足、令和元年「道の駅整備計画」を策定し、令和４年８月にオープンした。活用した補助金と市の財源確保や基本構想から商工会など地域関係者を含め、議論を積み重ねてきたなど苦労話も確認できた。本市でも「道の駅」構想をするにあたっては期待される効果をしっかり見据えて、財源を含めた協議・研究を進めていくことが重要であると考える。

○スマートウエルネスみつけについて

見附市は人々が健康で、且つ、生きがいを持ち安心安全で豊かな生活を送れる状態を「健幸（けんこう）＝ウエルネス」として捉え、これをまちづくりの中核に据えた取組を実践しており、「歩きたくなる歩道」や「美しい公園」などを整備し、体を動かす機会を増やし、自然に市民一人ひとりが健康となるまちづくりに取り組まれている。

外出する機会が増えることは、まちの中に交流を生み出し、人と人とがつながり、ひいては、まちの活性化につながると考える。

一方で、運動や健康づくりに無関心な層に働きかけることが課題であったが、興味を示さない住民に対する効果的な動機付けとして、毎日の歩数や健康運動教室の参加など、健康増進活動の内容に応じて地域で利用できるポイントを付与する、健幸ポイントを取り入れ、開始６か月後には、参加者の平均の歩数が推奨値の１日８，000 歩を超えるまでになり、参加者の医療費も年間５万円減り、市全体で年間約７，500 万円の抑制効果があった。そして、介護認定率も令和４年度で全国平均、県平均よりも低い、17.66%で推移している。

また、健康維持には口コミも重要なことから、健康に関する知識を広める「健康の伝道師」として「健康アンバサダー」の養成に積極的に取り組んでいる。

スマートウエルネスシティ推進のカギとして人材育成を掲げている。

健幸都市実現を下支えする市職員のスキルアップ・行動変容として、市職員がボランティアで地域コミュニティ活動に参画する制度がある。地域住民と共に汗をかくことで、信頼関係を土台として、地域と行政との協働によるまちづくりを推進しており、地域活動を通じて、職員の能力や資質の向上に繋がることが期待されていることに、興味深く大変勉強になり、また、参考になった。

○書かない窓口について

申請書の記入が必要な市役所での各種手続きを簡素化したことにより、窓口で用件を聞き取り、システム登録することで、来庁者は内容確認と署名だけで済むようになり、手続き時間の短縮につながると市民からも喜ばれている。窓口では、申請漏れをなくし、他部署での手続きに引き継がれるようになった。

本市では、書かない窓口のシステム構築は完了し、窓口でのシステム利用が反映されているので、市民課窓口等でシステムを活用し、市民サービスの向上に努めてもらいたい。

以上